

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議

第2回 大阪駅周辺地域部会 議事録

開催日時：平成24年12月18日（火） 10:00～12:00

場 所：ヴィアール大阪 2階 安土の間

1. 開会

佐藤計画調整局長（大阪市）

それでは定刻になりましたので、部会を始めさせていただきます。本日司会進行役を務めさせていただきます、大阪市計画調整局長の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、うめきた2期区域の開発方針あるいはエリアマネジメント、安全確保計画につきましてご議論いただきたいと思いますと考えてございますので、よろしくお願い申し上げます。なお、会場には傍聴の方々や報道関係の方々、多数ご来場されておりますので、部会につきましては、皆様方のご理解いただきながら進行して参りたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、今回の議事に先立ちまして、部会長でございます橋下市長より一言ご挨拶いただきたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。

橋下大阪市長

今日は本当にお忙しい中、このようにお集まりいただきましてありがとうございます。第1回の協議会もやっていますから、このまま自主的に進めて下さい。僕がやるべきことはとにかくお金をなんとかすることですから、中身は専門家の皆さんにやってもらって、後でまたちょこっと触れさせてもらいたいんですけど、お金をどうやって、土地をどうするかというところだけ若干気になっています。行政の方で考えている粗々の進め方でもいいので、僕は毎回毎回そこを繰り返し聞いていきますから、進めていくためにも、そこだけはある意味、僕の役割かなと思っていますので。

うめきたは本当に一番の重要な大阪の拠点という意味だけでなく、関西の拠点、もっと言えば西日本の拠点という意味合いがありますので、せっかくこういうまちづくりをやる以上は、普通のまちづくりではない、思い切ったまちづくりをやって、第1回の時にも言いましたけど、なんとかお金は用意しようとは思っているんですが、行政が抱える真ん中の部分は、あそこにどんどんビル建てて、あそこで利益を上げるというよりも、緑か何かの付加価値の高い、民間だけではできないような形の活用をさせてもらって、周辺部の付加価値を上げていく。中津や福島寄りの方だったりとか、とにかく東西南北、うめきたの周辺部が、西日本の大都市大阪にはちょっと物足りない雰囲気になっています。東京に行くたびに丸の内にしても何にしても、行くたびにもう、どんどんどんどんまちが成長しているところを目の当たりにしてですね、悔しい思いでいつも帰ってきますから。とにかく、うめきたの真ん中の部分は行政でしか出来ない、金はなんとか用意しますから、周辺部に波及するような、周辺部の付加価値が上がり、周辺部の民間の皆さんに儲けてもらうよう

な、そういうイメージで考えていますので、是非知恵をお借りできればと思っています。
とにかく東京に負けないように。猪瀬さんがまた430万票とかとって勢いづきますからね。とにかく東京に負けないように、切磋琢磨できるような、そんなうめきたの地域にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございました。それでは、議事の方に入らせていただきますが、その前に、本協議会の構成委員の方に変更がございましたので、ご紹介させていただきます。

まず、内閣官房地域活性化統合事務局長の和泉様に代わりまして加藤利男様のご就任されておられます。本日はその代理といたしまして、長谷川次長様にお越しいただいてございます。それから、国土交通省近畿運輸局長石津様に代わりまして大黒伊勢夫様が就任されてございます。それから、本日ご出席いただいている皆様のご紹介は、大変失礼でございますけど配席表をもって代えさせていただきたいと思いますが、配席表にJR西日本の真鍋社長様のご出席の予定でございますが、急遽所用がございまして来島副社長様に代理で出席いただきました。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。まず本日ご議論いただきたい論点につきまして3点ございますが、この点をまず私の方より簡単に説明させていただいて、その後、お手元の資料に基づきまして、今日の3点につきましての議論を深めていただくよう資料の説明を、させていただきたいと思います。

～ 資料Ⅱ “うめきた2期区域の開発方針に関する議論ポイント” 説明（省略） ～
それでは、詳しい資料の説明につきましては、担当部長より説明させていただきます。

2. 議題

Ⅰ うめきた2期区域の開発方針について

Ⅱ 大阪駅周辺地域のエリアマネジメントの推進について

Ⅲ 都市再生安全確保計画の策定について

安藤うめきた整備担当部長（大阪市）

計画調整局うめきた整備担当部長の安藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私の方からは最初に資料の確認をさせていただきます、その後資料の説明に入らせていただきます。

～ 資料確認（省略） ～

～ 資料Ⅱ “本日の議題” 説明（省略） ～

佐藤計画調整局長（大阪市）

それでは、ご議論の方に入っていきたいと思います。どなたからでも結構でございますが、挙手をして発言していただきたいんですけども、恐縮でございますが、残り時間が、90分でございますので、できましたら全員の委員の方々にご発言いただきたいと思いますので、3分もしくは5分くらいでご発言いただければと考えております。

(挙手) はい。では、森会長、お願いいたします。

森会長（関西経済連合会）

関西経済連合会の森でございます。先般、関経連といたしまして、検討内容を中間とりまとめとして整理しまして公表いたしましたので、その内容を踏まえて何点か提案させていただきます。お手元に参考資料としてお配りしておりますのが、前回中間とりまとめとして発表したものでございますので、ご参照いただきたいと思います。

まず、先ほど大阪市事務局よりご説明いただきました、うめきた2期の開発案におきましては、関経連が以前よりお願いしておりました段階的な開発、都市機能の確保の考え方を反映していただいております、高く評価したいというふうに思います。前回の官民協議会で橋下市長が示されました、高付加価値の都市という方向性を実現するためにも、うめきたに関西のゲートウェイにふさわしい都市機能を確保することが必要であるというふうに考えております。是非、事務局案の方向で検討を進めていただきますようお願いいたします。

更に、今後は、どのような都市機能を確保するかにつきましても議論を深めることが重要だと考えておりますが、まずは関係者の方向性を合わせるための開発コンセプトについて、具体化に向けた検討を進めることが必要だと思います。関経連の中間とりまとめにおきましては、一つのたたき台ですけれども、みどりと防災を基盤としつつ、「イノベーション、文化・観光を軸としたまち」という案を提示させていただいております。これをベースに、大阪府、市をはじめとする関係者の皆様と議論を深めていければというふうに思っております。

防災につきましては、既に京阪神都市圏広域防災拠点整備協議会におきまして、大阪地区における基幹的広域防災拠点の司令塔機能を大手前合同庁舎付近、または梅田北ヤードに設置するというにされておりますので、うめきた開発に際しましては、関西圏の広域防災拠点のあり方を踏まえた議論が必要だろうと考えてございます。

緑地につきましては、関経連といたしましても立体緑地を活用した開発に賛同いたしますが、現在の立体都市公園制度は民間にとってインセンティブをなかなか持ちにくい制度となっております。今後、政府に対する制度改善の提案を含めた検討を進めたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

また、関経連からは段階的な開発を行う、暫定緑地の考え方をご提案させていただいておりますが、今後の検討の参考にしていただければというふうに思います。また、暫定緑地を整備した上で段階的に開発する場合、都市計画における土地の用途を段階的に変更する必要がありますので、この点につきましても、国や大阪市など関係方面とよく連携させていただきながら検討していきたいというふうに思います。

加えまして、うめきた周辺への波及効果、これは橋下市長からもお話ありましたが、波及効果を出すことも必要だと思っています。例えば、淀川から中之島にかけての緑豊かな遊歩道の整備など、周辺エリアを含めて歩行者が回遊できる動線、これを確保することを検討すべきだと思いますし、これによりまして周辺市街地の更新、災害時の避難ルートの確保など様々な面で周辺エリアの可能性が広げられるのではないかなというふうにも考えております。

次に、民間の関わり方についてでありますけれども、関経連といたしましては、2期開発を成功させるためには1期のナレッジキャピタルを中心に芽生えつつあるイノベーションの「芽」を、他の特区地域とも連携しながら大きく育て、それを2期へと広げていくことが必要であるというふうに考えております。2期エリアにつきましては、イノベーションや緑といったコンセプトを踏まえまして、一定の時間をかけた新しい形の民間参加型開発を進めていければというふうにも考えております。まずは1期を関西イノベーション国際戦略総合特区の中核にふさわしい拠点とするため、国や大阪府、市からの規制緩和あるいは税の減免措置の拡大など、更なるご支援を賜りますようお願い申し上げたいというふうに思っています。

最後に、うめきた2期開発を進めるための事業スキームについてであります。関経連といたしましては、新たな手法として、例えば民都機構や都市再生機構などの公的機関や民間も参画する形で幅広く資金を調達するためのスキームを構築することが必要であるというふうにも考えております。ファンドの組成といった具体的な検討を進められるよう関係方面と連携させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします、

いろいろ意見を申し上げましたけれども、まちの開発や持続的発展、現実的な資金調達などを考えますと、うめきたのまちづくりには民の力が欠かせないと思います。関経連といたしましても、積極的に汗をかいて参るつもりですので、是非ですね、その上で官民が連携いたしまして、うめきた開発を国家的プロジェクトとして推進して、うめきたを世界に誇れるまちにしたいと思っていますので、是非、今後ともよろしくお願いいたしますと思います。私からは以上です。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございます。（挙手）それでは、角社長、よろしくお願いいたします。

角代表取締役社長（阪急電鉄株式会社）

大阪市からご説明いただきました内容的には、ほぼ全面的に賛成させていただきたいと思いますが、その上に立ちまして、鉄道、B I Dについて少し意見を述べさせていただきます。

21ページにも書いていただいておりますように、JR東海道線支線はもちろん、当然必要なんですけれども、今、千里中央から北急延伸するという調査をしていただいております。で、こうなりますと、箕面森町をはじめとした大阪北部から、更に御堂筋線を通じて大阪市内に流入される人口が増えて参ります。ということはですね、やはりこれを少し分散する必要がある。ということで、ここには西梅田・十三連絡線と書いていただいておりますが、十三から新大阪へは用地買収はほとんど終わって、阪急側でやっておりますので、非常に短期間に新大阪と十三・うめきたが結ばれる。ですから、阪急線から新大阪に行きやすくなるのは当然ですけれども、大阪北部から新大阪で乗り換えは生じますけれども、西梅田の方から大阪の中心へ入っていったらという、もう一つの南北軸が出来るということが非常に大きな意味合いを持っています。それが、ひいては、将来的には、例えばですけれども、今、堺の方まで地下鉄を少し伸ばせば、そこで南海線との接続ということも可能になりますし、また、地下鉄において各駅停車で行きますと非常に時間がかかりますから、

いくつかの駅で待機施設を設ければ、地下鉄に優等列車を走らせるということも可能になりますので、そうなりますと、新大阪と所謂うめきたと西梅田からずっと南に降りていく線が、非常に有効な路線になるのではないかなというふうに思います。この図面にありますように、このグランフロント大阪の一番北側で、東海道線支線の地下化と交差する部分がありますので、そういったことも考えますと、できるだけ早期に計画決定をしていただければありがたいと思います。

B I Dにつきましては、本当に短期間に検討いただきましてありがとうございます。N Yの例では、ご説明にありましたように、治安の悪いところを良くすることによってその周辺の地権者にメリットが出るから、みんな、税金を、喜んで払いますよと、家賃も上がりますよという、そういう構図ですけれども、この場合はどちらかというところということではなくて、今もそこそこの家賃がとれている、だけど、もっといいまちにしていきたいということなので、逆に言うと、N Yの例よりは難しい判断になろうかと思いますけれども、しかし、そういったことで、それを乗り越えてなんとか日本初のB I Dを成功に持って行っていただければというふうに思いますが、その中で、他の例と違うのは、やはり、これもご説明ありましたけれども、防災ですね。何かあったときの防災機能をこのエリアで、滞留人口がJ R大阪駅を中心に約20万人と聞いておりますので、そういった方がもし何かがあった時のソフト面を含めましたことをやっていこうとすると、B I Dというのは必ず必要になると思うし、初期のお金の工面は市長の方でいろいろ考えていただいていると思いますが、あと、そこの緑をきちんと維持、いいものに保っていくにはやはり、B I Dというものが必ず必要になるんじゃないかなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございました。特にB I D、災害時の避難空間をどれくらいのスペースが確保できるか検討します。やはり、うめきたの中では数少なく、やはり、鉄道事業者さんのご協力であるとか、あるいは2期の区域の開発の中にそれをどう盛り込むかが非常に大きなテーマになってくると思っていますので、またよろしくお願いいたします。

（挙手）篠崎常任幹事、よろしくお願いいたします。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

関西経済同友会の常任幹事の篠崎でございます。今日は鳥井代表幹事に代わって出席させていただきます。皆様方のお手元に私どもの「アピール」も配っていただいておりますので、11月5日に出させていただきましたこのアピール、簡単にご説明させていただきました上で、今日のこの事務局のご提案に対する意見を申し述べたいと思います。

私どもは、“梅北2期の公園として都市計画手続きをすみやかに”ということで、大阪の都市形成のシンボルとなる、未来への投資、この梅北2期の緑、圧倒的に質の高い緑をつくり出すということで、地上は全域緑のオープンスペースとしたい。そして、防災や鉄道関連で必要な施設は地下に、地上に建物は姿を現さない、低層の台地の丘の施設利用は可能とする、そしてすみやかな公園としての都市計画の手続きをした上で、多くの都市計画公園の規制というのもございますけれども、全国に例を見ない都心の公園としては、賑

わい広場、必要な防災施設等を柔軟に地下につくれるような現在の規制のしがらみを破るような、新しい発想で新たな都心型都市計画公園像を作り出していくべきではないかというふうに考えております。

そして、これは、先ほども橋下市長がおっしゃいましたけれども、お金の問題でございますが、都市計画公園にいたしますと、国から用地費の1/3の補助がございます。立体都市公園制度を利用して、地価の費用負担からの対価を得られるかと思えます。それにもう一つ、鉄道・運輸機構さんいらっしゃいますけれども、このような緑の公園という形で費用をずいぶん低廉にさせていただいたりとか、長期に渡る借地という制度も作り出していただけではないか、そのようなことを検討していただきたいというふうに考えておまして、できあがった後のパークマネジメントは民の力でやっていこうというふうに考えております。そのような私どもの提案と、前回、市長、知事がここは緑であるというふうに、大胆に大阪の未来への投資であると、たいそうな期待感を持って今日場に臨ませていただいたんですけれども、少し現実になるとしぼんでしまうのかなというふうに残念な思いをいたしております。

今回事務局の方からお出しいただいた絵は非常に苦勞しておられるのも大変分かります。巧みに工夫をなさっておられますけれども、やはり、20世紀の都市開発の発想から抜け出しておられないのではないかと感じております。今、都心のこの一等地に緑を回復しよう、緑をつくりだそうと、そのことにより周辺に波及効果を及ぼしていこうという時の緑というのは一体何なのだろうかと、この緑のコンセプトというものをまず聞きたいと思っております。確かに立体のタワーの緑も緑なんですけど、むしろ、人々が緑の中で集い憩えるということを考えました時には、緑のベースになる空間の形態というものが大事になるかと思えます。私どもは、以前、絵を描きましたが、その時には、緑のオープンスペースというのは、地盤面から人が歩いていけるエリアというふうに考えました。また、なだらかなスロープがあってもいいわけですから、低層の緑の段丘というのがあると思うんですけれども、少しここにご提案いただいた、スーパー立体緑地というものが、緑としてどのように人々に開かれたものになっていくのかということについて、ご検討いただきたいなと思っております。

また、緑が周辺の価値を向上させるということで、都市全体として魅力を創り出していくときに、少しこの中ではその開発効果を先にこの地区内で取り込んでしまおうという発想でスーパー立体緑地というふうなものをお考えになったのではないかなというふうに感じておりますが、やはり、全体を含んで、景観、緑が周辺に及ぼす効果を長い目で考えていくことが必要ではないかと考えております。

配置に関しまして、先ほどイメージだというふうにおっしゃられましたけれども、駅から一番近いところこそ、平面の緑でないかと、それから徐々に段丘的に低層の緑が続いていくというのが望ましい、これからの緑の在り方ではないかというふうに考えております。多分、事務局が大変ご苦勞なさってお描きになったこの絵の背景には多分、土地代の手当ということが考えられているのではないかと思います。確かにそうなんですけれども、そのことは大変大事なことですけれども、例えば、都市計画公園にする、国から1/3の補助がある、だけど、規制にしばられてがんじがらめになる、こういった都市公園の像でこれからもよいのでしょうか。私は、それぞれの地域にふさわしい都市計画ができるように、

都市計画の権限、公園の形態や規制に関してもそれぞれの地元自治体が考えていけるというふうにするのであれば、補助金はいりません。だけど、ここはすばらしい大阪の駅前に相応しい緑にします、緑の都市計画公園にします、という形で、新しい都心型公園像を造り出していけるのではないかと。そうしましたら、1/3の用地費を国からいただける分はですね、同じ国の機関である鉄道・運輸機構が公園としての用途にふさわしい地価として、低廉な地価で提供していただけるというふうなことが検討いただけるのではないかと、この場で、是非国の関係者の方にもお願いしたいと思っております。そういう意味で、少し大きな前提として、今日の絵に関しまして、もう一度原点に戻って、緑をここにもってくるコンセプト、その一番大事なものをもう一度検討していただきたいなと思います。周辺がそのことによって価値が上がり、いろいろな機能が世界的な機能がそこに集積してくるという大きな絵を描いていきたいなと私は同友会としては考えております。

それと、もう一点、大変重要なことだと思うのですが、ここに地上の緑、平面の緑があっても、この地域外ですね、今、地図で言いましたら、西側の区域外の地域がございますけれど、そちらの地域も巻き込んで考えないと緑の景観というのを維持しにくいと思います。B I Dがこのうめきた地区17haの中と隣の1期ですね、全体の中だけで考えていくと、その周辺には緑の横にまた、大阪らしいといいますか、がちゃがちゃの都市景観が出来たりすることがないように、今からこの緑の西側の周辺の環境を担保する、そういう景観計画を考えておかないといけないのではないかと思います。以上です。

佐藤計画調整局長（大阪市）

（挙手）小河副知事お願いします。

小河大阪副知事

副知事の小河でございます。今日は知事が、議会の運営委員会で来れませんので、代理で来ておりますけれども、従来、うめきたについて大阪府はあまり発言してなかったが、市長がとりあえず府からの意見を言えということですので、ちょっと意見言わせていただきます。

いろんな提案が今まで関経連さん、同友会さん、提出いただいております。我々がグランドデザインをまとめました時に、大きなコンセプトとしては、行政が案を決めないでおこうということ。それともう一つは、大阪が変わっていくんだということを外向いてアピールする、という非常に大きなコンセプトであります。当初、市さんがつくった案はもっと細かかったんですけど、一つの例であって、これは事務局の案であって、イメージ持ってもらったらどうかということで出しております。

で、私自身はやっぱりこれはコンセプト、やっぱり従来から言われているように、緑というのは一番大きなコンセプト。それから、いわゆる交通施設空間をどう配置するか。もう一つは防災面。確かに平面にびらっとつくればいいですけども、津波が来たら浸かります。そういった問題どうするかというのもございます。

それからもう一つはやっぱりこれをどう実現していくのかという実現性の話。コンサル的な発想でいろんな絵は描けるんですけど、我々からするとやっぱりどう実現するかが大事。で、事務局からありましたように、やはり準備期間2年くらいかかるんです。その間

にいかにここを盛り上げていくかということは、私ずっと言ってますけど、やはり、コンセプトきちんと詰めておいて、あとは、いわゆるデベロッパーなり、実現性持ってやれるところに公募してはどうかと思っております。それは、単に関西だけでなく日本全体、もしくは海外のファンドでもいいと思います。そして、いろんな方がいろんなところで注目してもらえそうなやり方をしたらどうかという議論をしております。また、その中で次、審査を皆様方、先生方、安藤先生もいらっしゃいますけど、東京オリンピックの会場の委員長をされてまして、逆にそういうところでコンペをするということを、あちこちで言ってもらったらそれだけで PR になるんじゃないかと思っております。そういったやり方をしていたらどうかということをおっしゃいます。

あと、土地の話で安く買う。これは元々大阪府とかの土地だったんですね。それがいろんな形で変わっていつてきている。来られてるので直接言いにくいんですけども、1期でもかなり、鉄道・運輸機構さん、儲けてはるんですね。そしたら、その辺やっぱり、今もその2期だけをかなりあちこちの資産をここへつけようとして高く売ればいいと思われるのは分かってますけど、是非とも、関西というよりやっぱり日本のために協力してもらって安く売ろうと、無料で提供してもいいじゃないかと、そういうぐらいの感じでやったらどうかというふうに思ってます。ですから、これから詰めていくには、いかに、そういう公募とか、いろんな人に注目してもらうようにしたらどうかというふうに思ってますので、補足と意見を言わせていただきました。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございます。緑の議論が中心になっております。

（挙手）小嶋副会頭、お願いします。

小嶋副会頭（大阪商工会議所）

今、語られている方向性というのは、わたしどもも本当にその通りだなという思いをしながら聞かせていただきました。ただ、この中でエリアマネジメントといった場合に、それをきちっと方向として確立しておかないと、エリアというものの決め方が非常に曖昧になっていくということが一つあるんじゃないかというふうに思います。

それと、もう一つは、緑というのは、やっぱり経済性をきちっとした形で確立しておかないと維持できないということがあると思います。その中に、緑と、私は自然の中だったら水やと思います。水をどういう視点で導入していけるのかということを、言って欲しいです。すぐそこに淀川もありますし、引く場合も非常に最短で引けるのではないかと思います。もちろん素人判断ではありますが、という思いもありまして、この中を鉄道として通すのはこれは必要だから、中央通りは必要なんだろうが、東西の道路は必要なのかという思いもやっぱりありますね。

さきほどありましたように、立体緑というのは、あんまり今まででも、ああ緑だという、いわゆる客観的に見て緑だということだけであって、自分たちがその中に身を置いて、じゃあ快適だね、と言えるものにはなっていないというのが多いと思います。それだったら思い切って、その経済効果が必要ならば、ビルとして一つ大きなものをつくってしまうということがあっても、その後の、それに吸収してしまった後の空間をいわゆるオープン

な形で、むしろオープンカフェなんかを併設して、カフェに人が集うというふうなこともやっぱりあっていいんじゃないかなというふうに思います。緑と水とカフェというような形で回遊性ができてくるということもあると思うんですが。

もう一つは、商業施設との共存ということを考えなきゃいけないと思います。商業施設を考える場合に、角さんもおいでですし、皆さん関係があるんですけども、パリへこの間行ってきましたら、パリの市街地の商業施設が、いわゆる既存の店舗が維持されているのは、大型店との共存性を市の方がしっかり考えているということなんです。どういうことかというと、休日なんかもしっかりと調整をして、それによっていわゆる個人商店の中の意欲のあるところはしっかりと地域の人に支持されるような、そういう営業を続けていけるという調整ですね。これもしっかりとやっていってるということだろうと思うんですね。そういったことを考えてみますと、もっと広い範囲で考えてもよいのではないかなと思うんですが、そういう発想はやっぱり出来ないんでしょうかね。中津の周辺とか、あるいは淀川まで一体になって考えるというようなことも必要なんじゃないかなというふうに思います。最初からこういう形になってしまうと、まとまらなくなってしまうんで、決められたのがあるというのがあるんでしょうが、やはり我々が将来を考える場合、淀川まで取り込んでしまうというぐらいのことは考えていってもいいんじゃないかなというふうに思うんですが。

それと、もう一つは、緑があってもあんまり人は緑の中に入りたがらないということがあります。外から眺めるだけだということになりますから。緑の中に、いわゆる人を惹きつける要素、これは私は、パリなんかは非常によく考えてますね。一定の時間はその道路にお店を出させます。しかし、一定の時間になったらずっと引き上げて、そしてその後は市がきれいに管理をしていくというふうなことをやってますね。市の清掃部隊がきちっと清掃して、そしてまちの人には快適な条件を提供するというふうなことです。単なる緑でもやっぱり私は、この一等地を使う場合、具体化していく時に、ちょっと経済的に問題を起こすということも生まれてくるんじゃないかなということを、最初からきちっと計算に入れて進めておくべきじゃないかなというふうな気がしています。ただ、決して篠崎さんの言われたオープンスペースということと矛盾することではなく、むしろ、それを活かす方向でつくっていくということではないかなというふうに思います。その他のことは、皆さんも言われていることだと思います。失礼しました、どうも。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございます。安藤先生、すみません、緑の議論があるんですけど、一言お願いできますでしょうか。

安藤忠雄氏（建築家）

建築家の安藤忠雄といいます。私はこのレポートを読んでいて、長生きしたいなと思いました。やっぱりここまで、まあ実際には、パリが1850年代に、オスマンという人とナポレオン三世が計画したパリの時に、今の計画が全部できているんですね。セントラルパークも同じく1850年代ですね。考えてみますと、やっぱり都市に住んでいて、一つはその都市に住んでいるということに誇りを持てるようなまち。同時にそこに行つてここ

で生きていてよかったなと思えるようなまちであると同時に、私は1995年の阪神淡路大震災の時に思ったんですけれども、自分がいつも馴染んでいる場所に避難します。安全と安心とがしっかりできるまちでなければならないというようなことも含めて、次の時代のことをしっかり考えておかねばならないと思います。片一方で経済性もごさいます。

日曜日にですね、中之島でリチウムの船に乗りました。なかなかよかったと思いました。今、イルミネーションも含めて、たくさんの人が中之島に来ているのを見て、大変大阪も変わってきたなというふうに思いました。大阪の人というのはだいたい、私も昔から中之島を時々散歩するんですけれども、散歩しませんかという話をしたら、「いや散歩したら腹減るだけやろう」というような、大阪人の意識をしっかりと変えていかなあかんのですけれども、なかなか変わりません。しかし、これを変えない限り、いくら立派な都市が出来てもだめなものですから、大阪市民の意識を変えるということも大事なんではないかというふうに思っています。

ところで、駅前の北ヤードもこの間ちょっと歩いてきましたけれども、北ヤードの2期は大変重要です。同友会の篠崎さんが言っておられるように、私もやっぱり思い切った緑にした方がいいだろうという時に、今度はお金の問題になるだろうということは間違いないと思うんですけども、この方式をどういうふうな方式にするかということも考えなければなりません、中途半な緑ならば私は役に立たないのではないかというふうに思います。同時に、この民間の企業というのはかなり力のある企業は多いんですけれども、なかなか都市に対して参加をしてくれませんので、もっともっと民間の企業は「よし！大阪のために参加してやるぞ」というようなことを考えねばなりません。先ほど話がありました、マルビルは大和ハウスさんが持っているんですけど、地上30mを壁面緑化して緑を花を咲かせようと言っておりますが、これは相当お金がかかります。4億円くらいかかるそうなんですけれども、もう既にやっております。来年の3月にはできます。同時に、積水のスカイビルというのがあるんですけれども、あそこに高さ10m、幅120mの壁面緑化の壁で中通れるような壁をつくって欲しいという話をしました。大和ハウスがやっているんだから積水もやった方がいいんじゃないかという話をしまして、これも賛同していただきましたので、これは来年の6月にできます。全部、バラやとかいろんな花を咲かせるという計画で工事はスタートしております。で、民間の人たちがもっと積極的に参加していただけたらいいなと思って、小河副知事と話をしに行きまして、JRのいわゆる空中広場に花をいっぱい咲かせてもらおうという話をしました。これは、JRの方で毎年やってもらおうというふうに、やってもらえないのならJRも大阪を出て行ってもらった方がいいんじゃないかというくらいな気持ちで頑張ってもらいたいと思ってますが、そういう機運がいくつか出てきたら市民の意識が変わってくるのではないかと思います。現に、今、御堂筋のイルミネーションとか中之島のイルミネーションも変わってきてますから、もっとこれをアピールする方法、テレビとか新聞とかに、誰かがアピールしていただくといいんじゃないか。駅前の緑化だけじゃなかなかできませんけど、今、NYでは鉄道の廃線になったところを全部公園にしています。これはセントラルパークの横ですけど、SOHOの辺りは全部屋上を緑化して、下はお店にしています。これはパリでもやっています。パリはまちの真ん中でやっております。これなんか、なかなかもう既になくなった、使用しないものを再利用しながらですね、都市の魅力になってきまして、大変たくさんの人が見

に来る。世界中の人たちが見に来るとというのが大事なんですね。おもしろいじゃないかと。何か新しいことやっているんじゃないかということと考えますと、先程淀川の話もありましたが、淀川の花火は私は近くにおるから、最見目もあるんでしょうけど、大変日本ではパンチがあるなと思っていますので、これももうちょっとレベルアップしたらいいんじゃないかなと。どういう風にレベルアップするのかというのも、前々から、なかなか色々ここは使えない、これは使えないということもあるんですけども、市民がもっとこの日本一というか世界一の花火にするくらいの気迫で頑張ってもらいたいと思うと、市民も参加せないかん、企業も参加せないかん。そして行政の人たちはやっぱりいろいろと乗り越えていかなければならない法律がいっぱいあるんでしょうけれども、これも変えていかなければならない。今、日本の国が変わらなければ、おそらくこの国は2～3年後にはもうなくなるのではないかと私は思っています。大変難しい状況にあることには間違いないわけですけども、その辺りの意識をできれば、この大阪の北ヤードから変えるためには相当の努力がいるけれども、やり甲斐はあるんじゃないかと。ここにおられる方も100歳まで生きていただくといいなあというふうに、小嶋さんも我々も、と思ってますけども。そのために、今、私は、我々ができる、市民ができることを、市民としてやりたい。そして同時に、阪急のメインストリートが改築されて感動しているんですけど、なにぶんにも私もあの辺りをよく通っていますので、いわゆるメインストリートはなかなかよくできています。天井も高い、そして幅も広い、そして魅力的ですから、そういうところをみんな見に行かないかんのに、意外と見てない人がいっぱいいたりするんですね。大阪のためにはやっぱりこの大阪周辺の地域にみんなが出て行っていただく、見に来ていただくと私はいいなというふうに思っています。また、この間、ちょうど、フェスティバルホールも竣工しました。上にレストランがありますので、あの上でパーティをしておられたんで行ったんですけども、あそこから見る大阪はなかなか活力が溢れています。今元気がないといわれていますが、なかなか活力がありますので、あの辺りからずっと大阪を見ていただくんですね、まだまだ大阪に対するイメージが出てくるんじゃないかというふうに考えておりまして、うめきただけじゃなしに、大阪全域を頑張らねばならないと思っています。ありがとうございました。

佐藤計画調整局長（大阪市）

どうもありがとうございます。

小嶋副会頭（大阪商工会議所）

未来型ということを一生懸命考えるんですが、大阪が成り立ってきた歴史性とか伝統とか、こういったものをしっかり踏まえなくてはいけない。例えば、中之島に、近松門左衛門と西鶴と西行法師くらいの銅像があつていいんじゃないかと。そのことが、子供たちに大阪に対する歴史をしっかり植えていける。同じようなことをやっぱり商業都市の玄関口だという意識の中でもう一度考える必要があるんじゃないかと思いますね。

佐藤計画調整局長（大阪市）

（挙手）長島副社長、お願いします。

長島副社長（日本郵政株式会社）

日本郵政の長島でございます。民間の大手デベロッパー、経験者っていうことをも含めて少しお話をさせていただきたいと思うんですけれども、私、三菱地所というところに長く勤めていたんですけれども、その中で東京の丸の内とか、横浜のみなとみらい21とか、北ヤードの1期も含めて、ずっと通してやってきた人間なんですけれども、その間、ずっと思っていたことは、やっぱり時間軸が長い、いろんな大きい事業に関しては、やっぱり時代とともにインクリメンタルであるべき部分と、時代が変わっても守るべき作法というものを、ここにいらっしゃる関係者の方で共有できるかということが、非常に大きい出発点の位置として大切だなと思います。特にやはり「都市計画が絡む」というような言葉が出た途端にですね、その切り分けってすごい難しいなということを長年経験して参りました。その中で、この北ヤード2期及びその周辺ですけれども、今日整理されていることは、非常に、道筋としてはいいんじゃないかなというふうに思うのですが、この時間をプロデュースする方、またはその組織体制ということが次の段階として早く見えなくてははいけない。往々にして、私もデベロッパー出身者ですけれども、デベロッパーという言葉がどのタイミングで語られるのがよいのかなというのを非常にいつも思うんですけれども、むしろここにおいては、時間を管理するプロデューサーの方がいるべきだろうと。そのプロデューサーが、私は各都市で仕事をさせていただいた時に、社会が変わっても、うまく回っている都市開発事業というのは、やはり地域の経済界の方がある程度コミットしている、立ち位置としてコミットしている案件について、非常にいろんなことがあってもうまく回っていったんじゃないかなというふうに思います。今、こういう形で地域の経済活動の方が集まられているということは、非常に意味があるということですので、これを次の段階に持続的にもっていければ、よりいいんじゃないかなというふうに思います。

それから、もう一つはやはり、資金の性格というものが非常に大事だなということで、多分、10年20年くらいの考え方の資金がいるんだろうということからすると、これも民で担える範囲と、それを補強していただくような、先ほどURさんの話とか民都機構の話も出ましたが、そういうものも必要かなと。ただ、これはやはり大義がないといけないということですので、この大義がですね、この関西からうまく東京に伝わるという方法論もそろそろいるんじゃないかなというふうに思います。

また、今日は小林先生がご欠席なんですけれども、2週間くらい前に二人でお話をさせていただいたんですけれども、先生のレポートもいただいておりますけれども、更に加えますと、できれば地域においては、エリアマネジメントの、またはBIDの一環として、確かエネルギーマネジメントということですね、是非展開して欲しいと、また自分も考えたいと。日本の大都市はいろいろ東京も含めてやっておりますけれども、「この分野でまだ先駆的な見せ方されているものはないだろうし、アジアのゲートウェイとしてやろうということであれば、そういうことも是非見せていきたいね」、というようなことを、小林先生はおっしゃっておられました。ちょっと余計な話かもしれませんが、その辺考えさせていただければと思います。

日本郵政としましては、前回申し上げましたように、この2期の周辺に大阪中央郵便局だけでなく、積水さんの横に非常に広大な土地をもっておりますので、私としましては、

今申し上げたようなことの具体化の中で、日本郵政としても、みなさんと一緒に議論をさせていただいて、次の時代を変えるようにしたいというふうに思っております。以上です。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございます。（挙手）では、ＪＲ西日本の来島副社長、お願いします。

来島副社長（西日本旅客鉄道株式会社）

ＪＲ西日本の副社長の来島でございます。私から２点お話しさせていただきたいと思っております。一つはみどりの創出の関係でございます。皆様方、それぞれご発言ありましたように、この大阪という都市の魅力づけですけれども、防災機能の観点からの方向というのは、私ども異論点もございませんし、正直、好ましいものだというふうに考えてございます。今回、あくまで一つのイメージというご提案でありますけれども、いわゆる平面から高層までの中で、いかに開発とのバランスを考えるかという観点は私どもとしても、そういうふうに考えていくべきだと思っております。

やはり、大阪にお住まいの方にとっても緑も大事ですけれども、やはり大阪にお見えになる、まさに府域外の方にとっても大阪っていいな、行ってみたいな、と思えるようなものがないと、単に平面だけということでは非常にインパクトがないのではないかと思っております。先ほど、安藤先生からもご指摘がございましたように、私どもが現にある駅の空中庭園もですね、やはり期待に背かぬよう、やはり考えていかねばならないというふうに思っております。

２点目は今日のご提案でも、１５ページの全体のスケジュールがございました。今後２年間で更地化とセットで、民間でいろんなコンペなどの手順を踏むということでありまして。私どもＪＲの方、地下化、新駅に関しましても、いかにスケジュールを短縮するかということが大事というふうに思っております。と申しますのも、やはり、これから１０年くらいで整備しないと、関西そのものの力が、なかなか一気に発揮できないと思うものですから、やはり、いかに地下化、新駅についても、早く事業化し、先程来、お金のこともこれからございますけれども、そういう予算化についても、是非私どもども考えていく必要があるんじゃないかと思っております。是非、これからも大阪市の皆さん方と、いかに工期の短縮に向けてできるか、そういうふうなことを私どもとして、力出していけたらと思っています。

おおさか東線からちょうど梅田に入るルートの一つとして、ちょうどこの週末の土曜～日曜にかけて、新大阪の構内の線路の切り替えを第一回目行って、終わりました。そういう意味で、順次地下化に向けた周辺の準備は進めておりますし、これからも、行って参りたいと思いますので、是非、全体のスケジュール感については、またご指導賜りたいと思っています。以上でございます。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございます。（挙手）では、先に手をあげていただいた、大西支社長、お願いします。

大西支社長（都市再生機構）

UR西日本支社長の大西でございます。今まで、皆さんからいろいろなご意見が出て、まさにその通りだというふうに思っておりますけれども、重なるところもございますけれども、私は民間とのパートナーシップによる開発は非常に良いことだと思っておりますので、それを実現するためにも一番のポイントは、事業としてみたときに、そのリアリティとリスクの関係をどうおさえているか。そこが非常に重要だろうというふうに思っております。

1期の開発では、土地取得から収益の開始まで、当初の計画では4年だったんですね。途中で容積率を変えるということがありましたので6年かかりましたけれども、要は土地を買って、つまり、資金を投下して、それから収益の開始までは4年、その程度であれば、頑張れば事業者さんはお金を出せるだろうというふうに思いますが、2期は今日ご紹介がありましたように、10年以上かかる。つまり、期間リスクが決定的に違うということをもっと前提に、この事業スキームを考えていく必要があるだろうというふうに思っています。

そこで、この資料の13ページと14ページをもう一度見ていただきたいんですが、13ページの開発手順のイメージ例というところにまず書いてございますけれども、2期のインフラ環境、この整備を先行的に着手して、順次街区ごとに開発を実施、というふうに書かれています。先ほど、小河副知事も長島さんもおっしゃっていたように、具体的に考えていった時の、実現性と時間ということを考えたときに、ここのインフラ整備は、行う事業主体は誰なのか、その費用はどういうふうに負担するのか、ということをもっと今回の計画の中にきちんと織り込んでおく必要があるだろうというふうに思っております。そして、いつの段階で、民間事業者さんに土地代、資金を提供していただけて活用していただくのか、それをイメージしておくことは非常に重要だろうというふうに思っています。

それから、民間からの提案を募集する。14ページのところに、民間とのパートナーシップのもと、行政主導ではなくて民間の発想で開発する仕組みは非常に重要で、これからの我が国の都市開発のモデルをつくっていくことになるだろうというふうに思いますが、この時にも、どこまでその提案に責任を持ってもらうのか、単なるアイデアコンペなのか、そうではなくて、ある程度その提案に対して責任を持つ提案をしてもらうのか。私は後者のものでなければリアリティがないというふうに思います。ですから、そのためにも、どの段階で民間の方に土地を譲渡するということになるのか。そしてそれまでの間は誰が持つのか、鉄道・運輸機構さんがずっと持ち続けるほど我慢できるのか、というのは、言うなれば、国のお金をそのまま借り続けるということと一緒ですので、きっとこの後、瀬川さんは助けて下さいと、それは無理です、とおっしゃるのではないかと、私は思うんですが、おそらく何らかの形でそのところをクリアしなければならないということをお考えになって、関経連さんも民間も、公的機関や民間も参画する形での幅広い資金を調達するためのスキーム構築、これは新しい仕組みが是非必要なのではないかなというふうに思います。こういうようなことを前提として、だから、いついつに民間の方に土地代を支払っていただく、そういうようなことをイメージできるということを前提としたコンペをしなければ、責任もった提案は出来ないのではないかと考えていますので、これをどういうような形にするのかというのが、今後のこれからの検討課題だろうというふうに思っています。

そして併せて、当然ですけれども、その土地を取得するということはその土地が将来どういう土地利用をされるのか、つまり出口戦略、アウトプットがはっきりしなければ、その土地の価格というのは決まってくる。その価格を決めるためにもコンペを行うということですから、そのコンペというものが非常に重要性を持ててきますし、リアリティのあるものである必要があるというふうに私は思っていますので、まさに、先ほどプロデューサーが必要だ、というふうに長嶋さんのおっしゃったとおり、真だろうというふうに私も思います。そして、出来れば、この非常に画期的なやり方、長期間かかるけれども、大阪のためのコアをつくっていく、日本のコアをつくっていく、そして、それでいて、緑を中心とした開発を実現していくということを是非、ここで実現をしてみせるということが、大阪にとっても、日本、世界に対してアピールできる大きな重要なプロジェクトだろうというふうに思っていますので、そこのリアリティを是非実現するということを検討していただきたいと思いますし、ご要請があれば、その検討のお手伝いをしたいというふうに思っております。以上です。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ちょっと、話の流れもございますので、瀬川理事、お願いします。

瀬川理事（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）

鉄道・運輸機構の瀬川でございます。いつのタイミングでお話をしようかなとずっと思っておりまして…緑の配置だと私の出番ではないなと思っておりまして…今、大西さんの方からちょっとしゃべれというお話がございましたので…いずれにいたしましても前回の部会におきまして、市長よりいわゆる土地の取得について問題提起がなされました。これに対しまして私どもの方としましても真剣に検討しているわけでございますが、本日の資料によりますと、開発のイメージといたしますか、あるいはスケジュール感等につきましても、ある程度ものは出していただけましたので、これによって私どもの方としましても、市と一緒に検討していかないといけない問題ではございますが、検討できる、あるいは市との間でのこういった開発のイメージなり、スケジュールが一つのベースとして共有できるということが非常に大事だと思っております。そういう意味でこれから佐藤さんのところと真剣に検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから先ほど、1期で売れたんだから少し安くしたらいいじゃないか、というようなお話もちょっと出てございましたが、私ども機構の土地処分というのは、国鉄改革によります長期債務を償還するために、国鉄で不要となる土地を JR 各社に承継させずに私どもが受け取って、それによって借金を返していこうというスキームで、もともとは始まっております。国鉄改革の時に、ちょっと記憶で申し訳ないですが、国鉄長期債務として数えられておりましたのが38兆円ほどございます。で、それを国鉄清算事業団が25.5兆円引き継ぎました。土地と株式を売却することによって長期債務を返済していこう、ということで考えております。従いまして土地と資産というのはきわめて重要な償還財源でございます。もちろん今は債務が振り付け替えられたりしてございますが、そういった中でも我々はできるだけ、土地を売却することで収入を上げて、国民の負担を少しでも減らす、

というのが私どもの使命であると考えております。従いましてあくまで清算業務でございますので、一つ一つの土地につきましても一件一件を着実、かつ確実に売っていくというのが、私どもの使命だと思っております。従いまして、前でうまくいったから次は、というのはちょっとなかなか乗りにくいと思います。あくまで私どもとしましても、確実に処分をしていく、という形で物事を進めていきたいと思っております。そういった制約条件と、それから市で行おうとしておられます開発事業、これが円滑に推進できるような、こういった土地の売り方みたいなスキームを、たぶん佐藤さんのところと真剣に検討しなければならないんだろと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。

佐藤計画調整局長（大阪市）

（よろしく）お願いします。では藤原社長、お願いします。

藤原代表取締役社長（阪神電気鉄道株式会社）

迫力ある意見で……。土地の取得に対しては今議論伯仲のところでございますので、私は少しその周りの環境を醸成するということで。タウンマネジメントをいろいろ言われておりますけれども、このうめきた2期が終わったらすぐそれが周りにそのまま波及する必要がある。そのためにはまずタウンマネジメントが必要なんです、前にも申しましたように、このタウンマネジメントというのは温度差がずいぶんある。既存施設を持っている人たちの考え方が随分バラバラなのをまとめていく必要がある。ですからそれを、早く手を着けて、その議論とは別にタウンマネジメントをやっていく。で、そのきっかけを、市の方でも府の方でも作っていただきたい。これが私の意見でございます。ですから、道路を使う、公共地域を使う、こういう時必ず許可が要たり、いろんな問題があります。そのあたりを少し緩和していただいて。タウンマネジメントをやるとこういうところで大阪を良くするんだ、という意思が現れるようなことを先にやっといていただくと、こういう、先ほど安藤先生もおっしゃいましたけれども、大阪人の意識も変わるんじゃないかと、このように考えております。よろしくお願いします。ありがとうございました。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございました。

橋下大阪市長

じゃあいいですか。いろんなご意見いただきましてありがとうございます。僕は知事をやって市長をやって、ちょっと国政に携わるようなことになって、政治と行政の役割分担をずーっと考えていたんですけれども、もう、どんどんどんどん役割分担というのが本当に重要だなということに気づいてきているところなんです、まあ、もともとこれ、緑っていう方向と、金はなんとかするっていう話を、この2点だけ僕と知事の役割で、それを言えば、こういった感じでまとまってくるわけじゃないですか。篠崎さんもいろいろおっしゃっていただいたんですけど、提案を、政治的にと言うか、いろんな事を言ってもですね、実行していくのが行政の方であって、実現可能性の話とのバランスを取っていかないと、なかなか物事が進まないところがあるんですね。だからといって実行の方ばかりを重

視して、行政の方ばかりを重視すると大胆な発想のところがどんどんつぶされてくると。ちょっと関係ない話なんですけど、非常に先日うれしい話があった。大阪城で、モトクロスの世界的な競技大会をやりたいと言った時は、行政のメンバーみんな反対したんですよ。個人的な感覚としてはこれはちょっと賛成できません、と。要は大阪城の西の丸庭園に土を盛ってですね、Xゲームっていう、もうとんでもないモトクロスです。大阪城の天守閣を借景にするんですけども、スフィンクスがあったり赤の広場があったり、万里の長城があたり、世界的なその遺産のところを借景にして競技をする。日本ではなかなか馴染みがないですが、世界でものすごい大きな世界大会になっているんですがね、それを西の丸庭園でと言ったら、みんな最初びっくりしましてね。先日天国に召された勘三郎さんが、西の丸庭園で平成中村座をやるときにちょっと小屋をかけるだけでもぜんぜんダメだったのが、あそこに今度、土盛ってモトクロスを、なんていうんで相当反対されたんですよ。まあそういうことをやってくれ、という話をしたらですね、ものの見事に行政は文化庁の審議会を通して、いよいよ文化庁の許可も取れるっていうことになった。僕が何を言いたいかというと、今回、緑、金、ということで、計画をここまでこうやってもらいましたが、見ると、やっぱりインパクトっていうんですかね、要は非常にうまくきれいにまとまっているんですけども、じゃあ、うめきた行ってみようよ、東京サイドから国内において、ぜひ行こうか、とか、すごいまちになってるね、っていうところにまだもう一つなんかそういうのが・・・、当然、行政が、うまくまとめた案ですから、実行・実現可能性のところでカチッとまとめたんだと思うんですけども、こうなるとせっかくの土地で、しかも東京に並んだ大阪で、拠点にしていこうという所では、ちょっとやっぱり物足りなさを感じる。ここはまた僕の出番でね、ここまでバチッと固めてくれてはいるんですけども、もうひとつ、もうちょっと大胆な、メッセージ力のあるということも、もう一回僕が深く掘らなきゃいけないのかな、という。その時に、実現可能性と政治的役割分担という話になるんですけども、これ、イメージ例というふうになってましたけども、これで確定というわけじゃないんですよ。これをもとに今度は民間の皆さんにいろいろ提案を受けるんですが、民間の皆さんはどこまで縛られるんですか、この案に。

佐藤計画調整局長（大阪市）

まず緑を作るということと、今日、篠崎さんからのご意見がありますけれども、我々としては立体的な緑というのをぜひ取り入れたいと思っています。基本的には、それを条件にしようと思っています。ただ具体的にやっぱり、提案いただこうとすると、例えば容積率とかですね、どの程度を想定するかとかいう数字が要と思うんですけど、基本的には周辺も含めて、どういう緑のバランスにするとか、あるいはどういう建物のデザインにするとか、そこは全部フリーに、大阪府市で整備しようとしている公園部も含めて、デザイン提案全部もらえないかな、と。

橋下大阪市長

相当、実現可能性高いレベルまで熟度深めてもらって、このエリアの中でこうやってますけど、もしかすると民間の発想で郵政さんの土地なんかを、郵政さんの所有権を侵すということではないんですけど、視野に入れた案が出てくることも否定はしないわけですよ

ね。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ええ、仕組みは考えますけども、周辺部含めたものに提案もらえるような形にしたいな、と思っております。

橋下大阪市長

いま、佐藤さんのところが詰めてもらったものを、全否定するわけじゃないですが、これはこれでこうやりながら、他の大胆な案を拒絶せずに受けるそういう機会っていうのは設けることはできるんですか。

佐藤計画調整局長（大阪市）

それで来年度にですね、少し予算も絡むんですけども、来年度にそういう民間提案の一種のコンペみたいのをやりたいなと思ってます。できましたら国の方からもですね、資金提供というか、補助の対象にさせていただけることも、お願いしながらですね、まあコンペも、府市だけでやるのか、少し UR さんからも先ほどご提案がありましたので、コンペをする主体みたいなのをはっきりして、海外に向けてもそういうアイデアを募集できないかな、と思っております。

橋下大阪市長

大西さんが言われたように実現可能性の部分もバランス取らなきゃいけないので、行政が今回まとめてもらったのを地方自治体が半分、国と、当然、それが出てくることも当然のことながら、ちょっと大胆な、ぶっとんだような案も参考にするために、実現可能性のある案だけ、ということでもなく、ぶっとんだ案も入れ込みながら、ただやっぱり実現、最終的にまとめるのは実現可能性のある案に決めなきゃいけないのは、これはもう当たり前のことですから、大西さんの言われたような実現可能性のあるようなことを、たぶんこの行政の立てた案というか、これに従ったような、大体こういうことに従ったような案も出てくるでしょうし、そうじゃない、それこそ立体なんか無しでね、平面だけでいい、その代わり周辺の部分と絡ませたような案が来たりとか、それこそ小嶋さんが言われたように、淀川から水を引っ張ってくるぐらいな話がでてくるものだったり、ちょっとその辺を、これで今このまま進んでいくと、行政のこの案をほぼ踏まえたような案しか出てこないってことじゃないような、そういう仕組みっていうか、設えってできないですかね。

佐藤計画調整局長（大阪市）

今日ちょっとご議論いただいているのは、我々としていわゆるコンペの枠組み、あるいはコンペの条件といいますか、それをこう、作っていくために我々の案を今日は提示させていただいたんですけど、今、市長がおっしゃった、これで我々いくということではなくて、バリエーションを示して今日いろんな議論をいただきましたので、コンペの条件を少し整理をしようというふうに思ってます。それは年度末に、3月にもう一度この協議会開

催させていただいて、そこで最終的な方向性を決めるんですけども。

橋下大阪市長

3月に何を決めるんですか。コンペの条件を。

佐藤計画調整局長（大阪市）

コンペやるための前提条件みたいなものの整理と考えております。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

コンペに関してなんですけれども、これは土地代がいくら、土地代を払ってもこういうまちにするんだ、という先ほどおっしゃった事業の責任を持つレベルのコンペなのか、それとも私はですね、さっき市長がおっしゃったように、インパクトのある駅前の緑の空間をつくっていく。で、まずそのデザインをランドスケープアーキテクトに大きなガイドラインとして作ってもらって、そういうのを世界から英知を集めてガイドラインを作り、その上で民間が行う部分についてまた別途、次の段階で、民間はこのまちづくりの中でどういう役割を担うかという二段構えでおっしゃるのか、そのあたり、時間的なものが、土地売り切りの期限とかいろいろあってということなんですけれども、やはりもうちょっと事業の採算性から民間の提案を受けるという部分ではなく、やっぱり大阪に行こうと思われるぐらい素晴らしい大阪の顔になる緑の空間をつくるという意味での、そういったガイドラインがまず要るのではないかと。この今日のご提案にはイメージ面では出ているんですけれども、公共として関わるガイドラインというのが見えないような気がいたしますので、そちらの中身をもう少し明確にしていいただければな、というふうに思います。

橋爪教授（大阪府立大学、大阪市立大学）

うめきたのコンペに関しては以前、もうこれは12年ほど前、世界中からぶっ飛んだ案を、山のように集めてそのあと、1期の具体的な事業に入ったという経緯があります。その時に数百件ぐらい、これは1期・2期分けずに全体をどうするのかというもので、あの時の経験を踏まえて今回のコンペは考えないと、あの時集めたあの夢のような絵はどこにいったんだ、というようなことを、もう一度議論するのかどうかというのは大事なことだと思っています。で、関連して申し上げたいのは、我々ちょっと、うめきた2期って言うてるんですね。緊急整備ということを行いながら、全然緊急じゃなくて、完成すると、始まりから20年近くかかっている事業なんですけど、もう一度これを、時間軸をゼロに戻すときが必要だと思います。今後2年間で開発の方向性とかを、コンペを踏まえて出てくるのであれば2015年段階において、もう一度これをゼロ年とみなすことがあっていいんじゃないか。これが大阪府、大阪市の新しい大都市制度ができた場合には、その節目となるであろう年次から、我々みな一致してかかるんだ。その時には現在ある1期のところなども、開業して2年経ってますから、もう一度私は、今回このうめきた2期と言ってますが、これを大阪の新しい大都市制度導入に関する記念事業という位置づけで、もう一度この2期の部分を中心に我々が何を考えてたのかということをしてですね、話すべきだと思います。これまでこうであって、次こうだ、という話ばかりいってしまう。それはエリアマネジ

メントとB I Dは違うっていう話も同様であります。B I Dは何度も申し上げましたように、荒廃したエリア、治安の悪いところなどを、業務地区としてあらためて新たな雇用を生む、という、B I Dの場合は「ビジネス」が付いていますから、業務の地区、という概念が強く出ます。ですから防災という概念と馴染むかどうかというのはちょっとわからないんです。むしろこの公園を、新しい緑を中心に、従来の特定都市再生緊急整備地域以外のエリアも含めて、これは東側も西側もあると思いますが、もう一度、この緑を中心として考え始めるということのきっかけにすべきだと思います。これはこの地域の容積がどうなるのかわかりませんが、容積をどこに飛ばすのか、というふうなことも、この緊急整備地域の外にとばすようなこともあっていいのかもわかりません。もう一度緑中心に考え始めるという時間軸の再設定というのをぜひ、強調しておきたいと思います。

橋下大阪市長

確かに道路の幅の問題も、僕が、「ちょっと見直ししなきゃいけないんじゃないですかね」と言わない限り、なかなか行政としては計画がある以上、その通りにやるっていうのが使命でもあるので、今までの経緯をずっと踏まえてということではない手法で、やっぱりやっていかなきゃいけないんでしょうね。あとは篠崎さんのおっしゃられることも勿論だとは思いますが、だからと言って、これ全部無し、っていうわけにもいきませんから。小河さんが言われた話は、要は、これをもとに、コンペもやりつつ、でも…ということなんですか。

小河大阪副知事

中身はこの前おっしゃったように、キーワードだけきちんと決めておいてあとはもう自由に…。

佐藤計画調整局長（大阪市）

基本的には今市長が言われたこと、それから先生の言われたことは、私の中では同じ目線の中で整理できると思いますので、次回にぜひそれを提案させていただいて、こういうやり方をします、という方法論を、具体的にお話しさせていただきたいと思います。

橋下大阪市長

要は一番、この案に乗っかっていったら実行可能性が一番高いものになるということですよ。

佐藤計画調整局長（大阪市）

これもですね、地価の計算とかそういうことを緻密に積み上げたわけではなくて、こういう考え方をコンペをする時に前提条件として提示したらどうかということですので、実務的な、それこそ土地をいくらでどうなるのかというようなことは、一応並行してやってますけれども、それも全部含めて最後3月には、こういうやり方で進めていきたいという提案をまとめていきたいと思っています。

橋下大阪市長

だから、行政として、こうまとめてもらってこういう出すのは全然いいんですけども、そうじゃない平面型の案で採算とってくるような案がくれば、それはそれで最後、採用決定すればいいわけなんで、なんかそういうものをこう、排除しないような形の、行政としてはひとつの考え方でこういうものなんだけれども、というような位置づけですかね。

佐藤計画調整局長（大阪市）

そういう方向でやりたいと思っています。

橋下大阪市長

あとB I Dもですね、行政でまとめると恐らくこうなるかな、と思ったんですが、僕の役割っていうのは要は金をどうするのか、っていうところで、フェーズ1でいつも連携とか何とかで終わってしまって、フェーズ2の27年から、大体皆さん27年からとおっしゃるんですが、27年以降、僕が市長となってるかどうか分からない時期なんでね。どこに行っても27年以降なんですけど、やっぱり僕の任期中にある程度のきっかけをスタートさせる、僕はこのB I Dやる、って言ったら、角さんが「B I Dやりましょう」と言って下さったから、「そしたらやりましょうよ」って言ったんで、これはやっぱり、税の賦課か何かを僕のこの任期中に、一部エリアでもいいので阪急さん、阪神さんの協力得ながら決めてしまって、であとは、組織をどう運営するのか、民主的な手続きをどうするのか、それはもう皆さんに知恵絞ってもらって、阪神さんから出たインセンティブの話もこれでここに任せれば、道路使用許可とか何とかが結構自由にできますよ、インセンティブを含めたようなやつを、ちょっとこれはフェーズ1でですね、B I Dの話を広げていきますというところではなく、税を賦課するか、ある意味強制徴収ですよ、そこ踏み込んだやつを、あそこ全体じゃなくても、阪急さんのエリアのとこだけでもいいじゃないですか。税賦課してまた阪急さんに返すっていうやり方とか。なんでもでいいので、とにかくちょっと踏み込んだやつは、これはこれで大きな方向性としては、こういうふうにやりながら、全体はこうなんだけれども、まず先行的にこのエリアで踏み込んでこういうのやりましょうというのは、ちょっと挑戦したいですよ。

佐藤計画調整局長（大阪市）

わかりました。ちょっとおとなしい案になってたかもしれませんが。ちょっととんがったB I Dの計画をもう少し、言われた期間でいけるように、次回また提案させていただきます。長谷川次長、今日は内閣府のほうから来ていただきましたので、よろしくお願いします。安全確保計画の話が若干ありましたけども、それに関連してよろしくお願いします。

長谷川次長（内閣官房 地域活性化統合事務局）

最初の方の議題につきましては、特定都市再生緊急整備地域ですので、国として、できる限りの応援をさせていただくということで、一緒に取り組んでいきたいと思っております。それから今佐藤さんからお話のございました安全確保計画、これも早速に協議会でと

りあげていただいて、非常に熱心にご協力いただけるということで大変結構ではないかと思っております。東京の方では大震災の時にかなり駅の周辺で大きな混乱が起きました。それを踏まえて、うまくできたこと、できなかったこととあったわけですが、やっぱりもっと皆で何とかしようという機運が非常に盛り上がっております。で、それを、後押しさせていただく法制度としてこの仕組みを作りましたので、ぜひここにおいでの皆様にも、この安全確保計画につきましても、力を合わせて、非常時の防災力というのは、この都市再生においては、事業継続性を含めて、まちの力を高める、ブランド力を高める、そういうためにも非常に重要なものですので、ぜひ積極的に、お取り組みをいただければというふうに思います。ぜひそういうことも含めて、力のあるまちを作っていただきたい。そのためのお手伝いをしたいと思っております。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございました。それから、まだご発言いただいていない、谷本局長、よろしくをお願いします。

谷本局長（国土交通省近畿地方整備局）

近畿地方整備局、建政部というところから来ています、国交省全体で言うと支局の関係ですが、ここの持っている予算とか制度とかってというのは結局、今日の議論で言うと、皆さんで合意できた最終の姿の実現可能性をどれだけ上げることにお手伝いができるか、という、具体的などころでは補助金とかそういう仕組みですよ。ですから、前回申し上げましたけれども、ここにお集まりの関係の皆さんで、課題だとか目標の方向だとかを共通認識を持っていた上で、具体の、最終的な絵を描く、それはコンペとか諸手続きがあるのかもしれませんが、それが相当突拍子もないものになったとしても、今のままでも何点かはお手伝いができるスキームがあると思います。ただ、今の制度でいうと、一定の条件が付いたりだとか、資金変動だとかするわけで、それを更に高めていくためには、今日の議論にもありましたエリアマネジメントとかB I Dの新しい概念の議論を深めていくなかで、我々も一緒に勉強させていただいて、どこまでお手伝いができるのか、ということについて一緒に勉強せねば、というふうに思っています。ぜひよろしくお願いいたします。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございました。大黒局長、お願いいたします。

大黒局長（国土交通省近畿運輸局）

今回の部会の議論の中で鉄道計画が出たんですけども、東海道線支線地下化および新駅、これが非常にこの地域にとって重要であると思っておりますけれども、大阪のターミナル地区から関西空港や和歌山へのアクセスというか、それからおおさか東線のお話をJR西日本の方からされましたけれども、駅の使い方、どんな列車を入れるかということによってその機能は拡大するんだと思います。私どもの手続き、行政法上の手続きはこれ、進んでおりますので、まちづくり等、全体と整合性を取りながらスピード感をもってどんどん

進めていきたい、そういうことが必要かなと思っております。我々としてもしっかり対応していきたいと思っております。それから西梅田と十三の間の鉄道でありますけれども、資料では、都市交通審議会のものが出ておりますけれども、平成16年度の近畿地方交通会議答申のなかでも、中長期的に望まれる鉄道ネットワークを構成する新たな路線、その一つとして答申をされております。四つ橋線沿線地域の活性化、あるいはネットワーク、地域全体の活性化というところに行き着くんだらうというふうに思っておりますけれども、このプロジェクトは東海道線支線と違って、鉄道事業法ですね、これから、ということになると思っております。今後まちづくり全体との整合性、あるいは事業スキーム等について、行政や鉄道事業者、関係経営者との議論を深めていく必要があると思います。よろしくお願いいたします。

佐藤計画調整局長（大阪市）

はい、どうもありがとうございました。それでは三菱地所の林常務、お願いいたします。

林常務執行役員（三菱地所株式会社）

三菱地所の林でございます。2期の開発につきまして、先ほど森会長さんがおっしゃられた、やはりいろいろな要件整備をしていただかないと、なかなか、ディベロッパーの我々としては参加しづらいと思いますので、ぜひ、コンペの要件を決めていただければと思っております。それから私どもは1期の開発をしておりまして、1期はもう4月に開業ということで、4ヶ月になってきております。その中で、今回の資料の中で、エリアマネジメントの話が出ておりますので、若干その活動についての報告等をさせていただきたいと思うんですけども、今日の資料で31ページの方に、エリアの巡回バスですとかレンタサイクルであるとか、オープンカフェであるとか、公共交通機関を使ったオープンカフェとか、かなり様々な取り組みをしております。もちろん防災もかなり取り組んでおりまして、実際に建物の中に何人収容できるかという、そのための備品はどうかといった検討もしております。やはりこういったことを、活動をして、まちのブランディングを上げて、まちを活性化していくということを主題にしてやっていきたいと思っておりますので、ここからやはり2期の方にもエリアマネジメントなりにもつなげていただければな、と思っております。やはりかなりいろんなものをやっていきますと、具体的に、大枠はいいんですけども、細かい各論になりますと、既存の条例なり法令の中でどうしても規制がかかってきたりしますので、今までにない新しい発想で、条例を変えていくようなところまで踏み込んで検討していただければいいな、と思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤計画調整局長（大阪市）

ありがとうございました。予定していました時間もあと2、3分で終わるんですけども、市長、特に最後に何かございましたら。

橋下大阪市長

あとはしっかりとお願いします。緑とお金の部分だけは僕らの役割ですから。さっき言ったコンペの要件とかも、どこまで詰めて、とか実務上いろいろあるんでしょうけれども、

なるべくいろんな案を見れるように、最後は決めたらいいと思います。大胆な案っていうのが山ほど来て、全然使い物にならないようなとんでもないやつばかり来てもしようがないけど、実現可能性とのバランスなんですよ。ちょっと幅持たせて、大阪城のモトクロスも実際行政が頑張ればできる話なんで、最初は無理だな、といわれてもできる話ですから、ちょっと、無理だなというやつでも頑張ればなんとかできる。幅を持たせたようなものがくるような、そういう要件設定をしてもらいたいですよね。もう確実にこういける、っていうそれだけじゃなくて。

佐藤計画調整局長（大阪市）

どうもありがとうございました。では次回、3月の末になると思いますけれども、第3回を開催させていただきます。またご案内のほう、させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

橋下大阪市長

どうもお疲れ様でした。

（以 上）